

三江線の歴史

- 昭和5年 石見江津(現:江津駅) - 川戸間 開業
- 昭和11年 三次-式敷間の工事着工
- 昭和14年 日中戦争により工事中断
- 昭和20年 終戦
- 昭和28年 三次-式敷間 工事再開
- 昭和30年 三次-式敷間 開業【三江南線】
- 昭和31年 所木駅・信木駅 開設
- 昭和32年 式敷-口羽間 開業
- 昭和50年 全線開通(三次-江津間の名称が【三江線】に)
- 昭和53年 三次・式敷間でレールバス運行
- 昭和53年 全通直通運転開始
- 昭和62年 国鉄の分割民営化にともない、西日本旅客鉄道株式会社(JR 西日本)が誕生
- 平成4年 臨時列車「SL江の川号」運行
- 平成7年 キハ120形気動車運行開始
- 平成18年 7月の豪雨災害で全線運休、12月に三次-浜原間で運転再開
- 平成19年 6月に浜原-江津で運転を再開し全線開通
- 平成25年 8月の豪雨災害で全線運休、9月に三次-浜原間で運転再開
- 平成26年 7月に浜原-江津間で運転を再開し全線復旧ラッピング列車「三江線神楽号」運転開始
- 平成27年 全線開通40周年記念式典開催
- 平成30年 4月1日廃線

三江線



三次駅を出発する祝賀列車
昭和30年(1955)3月31日
撮影:窪田正實
(鉄道友の会中国支部)



式敷駅での歓迎式
昭和30年(1955)3月31日
個人蔵



当時の保線用車両(式敷駅)
昭和30年代
個人蔵



SL江の川号(川平・川戸間)
平成4年(1992)11月21日
撮影:長船友則



わんぱく列車(式敷・信木間)
平成11年(1999)7月26日
撮影:長船友則

すめい
しんが
た
て
ら
し
て

の思い出

三江線路線図



式敷駅 信木駅 所木駅 船佐駅

駅撮影:山本直樹

臨時列車 お座敷列車(式敷)
3両のうちひとつは「ねずみ男列車」
撮影:谷口進

島 根県江津市の江津駅から広島県三次市の三次駅まで、35の駅を繋ぐ三江線。安芸高田市内には、式敷駅、信木駅、所木駅、船佐駅の4つがあり、地域の人々の暮らしを支えてきました。また、江の川の絶景に沿った風光明媚な窓からの風景は、多くの鉄道ファンを魅了。2018年4月1日の廃線が決まっ

てからは、お別れ乗車を楽しもうと全国から鉄道ファンが集まり、連日賑わいを見せていました。

市内でも記憶を後世に残そうと、昨年に歴史民俗博物館で企画展を開催。昭和初期から平成までの写真や停車平面図などの資料の展示、三江線を走る車両映像を放映したほか、公開講座やトークイベントなども行われ、多くの来場者が三江線の思い出に浸りました。廃線後は、代替えの交通手段としてバスが運行され、市民の生活を支えます。